＜要旨＞

アルドステロン(Aldo)の催炎症作用に関与していると考えられるオステオポンチン(OPN)遺伝子の転写活性化機序について検討した。Aldo 刺激による OPN 遺伝子転写亢進はミネラロコルチコイド受容体(MR)拮抗剤によって有意に減弱したため MR を介していると考えられた。また転写開始部位の-1404 から存在する glucocorticoid response element (GRE) を欠損した promoter は Aldo による活性化能を失っていたことから、Aldo-MR 複合体は GRE へ結合し OPN 転写量を調節していると考えられた。